

じんけんひろば  
NO.4

青木恵哉を

ご存じですか？

昨年の11月号で初めて書かせていただいたときに登場したのが、ハンセン病回復者のKさんでした。今回はそのハンセン病差別と闘ってきた徳島出身の「青木恵哉（あおきけいさい）」という人のお話ししたいと思います。

1893（明治26）年、徳島県南部に生まれた青木恵哉は、16歳でハンセン病を発症し、大島青松園に入園、そこでキリスト教の洗礼を受けます。1923（大正12）年に熊本の回春病院（現 菊池恵風園）に転院して、ハンナ・リデルと出会い、沖縄に派遣されます。その目的は、宣教と療養所の開設でした。しかし、開設は順調ではなく、住民の反対に会い、何度も挫折しながら、ついに1935（昭和10）年に本部（もとぶ）町の尾部にたどり着き、その沖合にある無人島ジャルマで40人ほどと暮らし始めました。このとき青木が詠んだ、「魚ならば海にもぐりても生きん 鳥ならば空に舞い上がりてものがれん 五尺の体、住む所なし」と詠んだ石碑が対岸に設置されています。



沖縄「愛楽園」に残る胸像

人から逃れるように暮らしていた青木たちは、1938（昭和13）年に無抵抗で守り続けた土地を基盤に、ハンセン病療養所「沖縄愛楽園」を設立しました。

その後、1969（昭和44）年3月、青木はその76歳の生涯を閉じます。青木は生前、ハンセン病差別に抗し、「人間回復」を訴えてきました。その思いはハンセン病国賠訴訟で生かされ、国はその施策の過ちを認めることになりました。いわゆる「人間回復裁判」です。

そんな青木の偉業を知る人は少ないですが、徳島の偉人として語り継いでいきたいと思っています。（森本）

（写真提供：NPO法人あわーふらっと）

5月のお知らせ

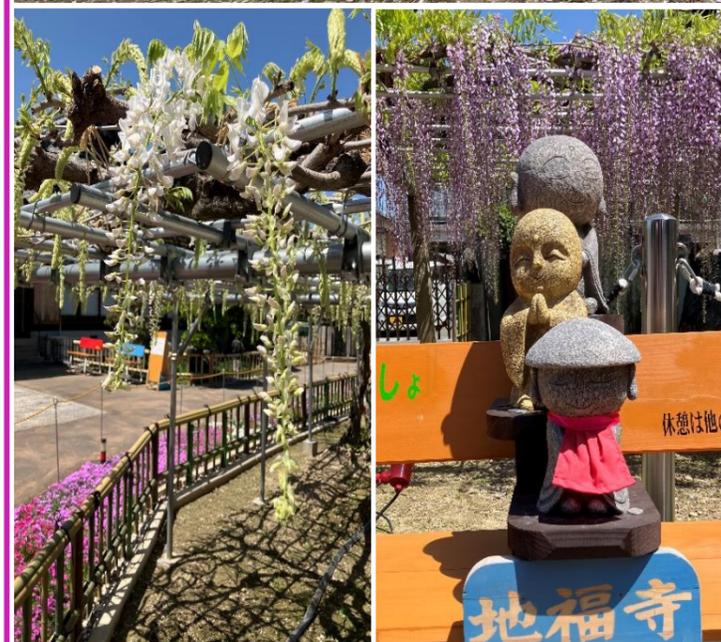
講座名	日	時
しあわせボディ教室	毎週月曜日	13:30～15:00
自力整体教室	毎週金曜日	13:30～15:00
将棋教室	毎週水曜日	13:00～16:30
健康教室	5月1日（木）	9:00～11:00
料理教室	5月22日（木）	9:30～
ハンドメイド	5月12・13日（月・火）	10:00～16:00

一条ふれあい会館だより

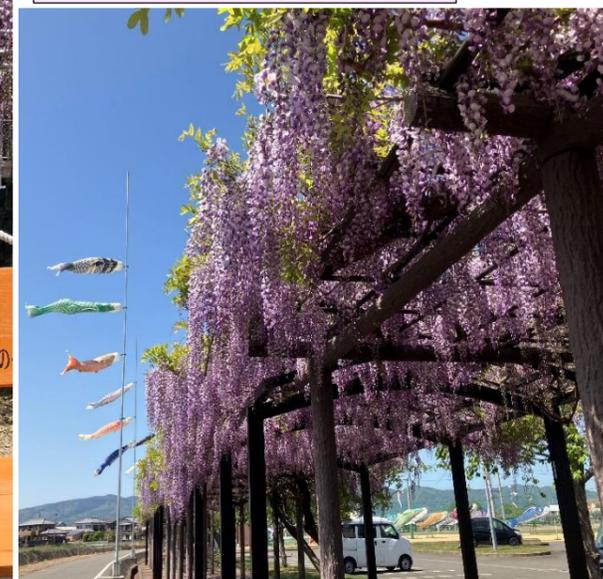
阿波市吉野町西条字東須賀94-3 TEL・FAX 088-696-2487



童学寺の藤 2025.4.20撮影



地福寺の藤 2025.4.20撮影



いいドームの藤 2025.4.20撮影